

3-2-3 土壌及び地盤、地形、地質の状況

(1) 土壌

事業実施区域周辺の土壌図を図 3-19 に示す。事業実施区域周辺の大河津分水路左岸側は細粒グライ土壌（G-f）、右岸側は粗粒グライ土壌（G-c）が分布している。事業実施区域周辺の信濃川右岸側は、下層に砂層、礫層をもつ河床型の地形に多くみられる粗粒灰色低地土壌（GL-c）が分布している。

可動堰下流側左岸の急斜面には、A 層の発達が浅く弱い、残積性未熟土壌（R-g）が分布している。可動堰下流側右岸には水田下などに見られるグライ土壌（G）が分布している。

(2) 地盤

県内では、全国地盤環境情報ディレクトリ（環境省 2002）によると、新潟平野、長岡地区、高田平野、南魚沼地区、柏崎地区において、地盤沈下が報告されているが、調査範囲内においては、確認されていない。

(3) 地形

事業実施区域周辺には右岸側下流部に弥彦山系があり、分水路を挟んで左岸側にも一連の丘陵地が連なっている。なお事業実施区域周辺の地形は図 3-20 に示すとおりであり、実施区域周辺は扇状地性低地（汎濫原性低地）に分類されている。

(4) 地質

事業実施区域周辺の地質は図 3-21 に示すとおりであり、事業実施区域周辺の地質は礫・砂・シルト（段丘堆積物）に分類されている。

分水路下流部右岸の丘陵地は大規模な「地滑り地帯」となっている。

(5) 重要な地形

「日本の地形レッドデータブック 第1集」（日本の地形レッドデータブック作成委員会 1994）では特に選定されていなかったが、「日本の地形レッドデータブック 第2集 - 保存すべき地形 -」（小泉・青木 2002）において、分水路が選定基準、ランク B として選定されている（図 3-18 参照）。

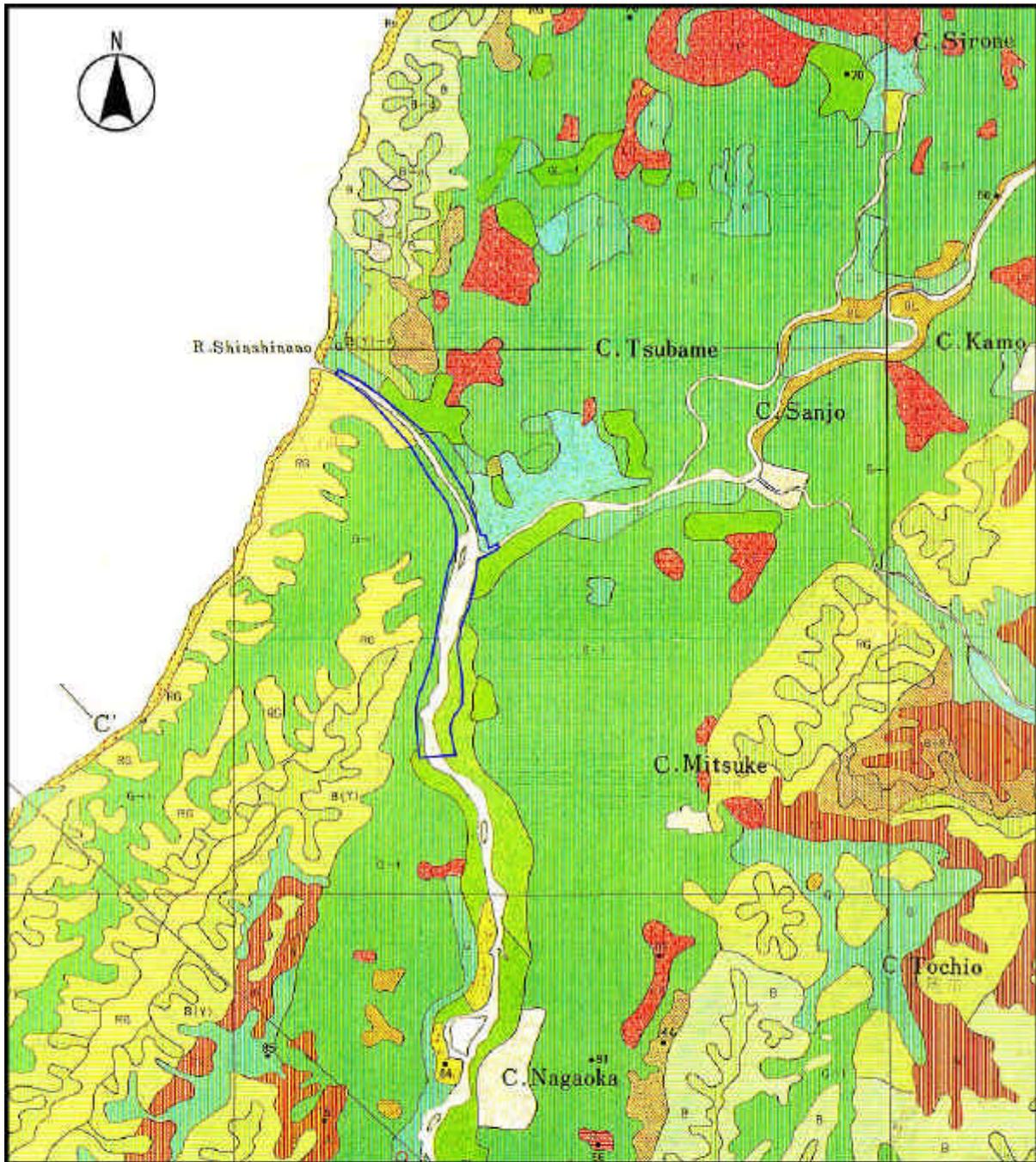
なお、重要な地質としての指定はなかった。

- ・選定基準：（日本の自然を代表する典型的かつ希少、貴重な地形）に準じ、地形学の教育上重要な地形もしくは地形学の研究の進展に伴って新たに注目した方がよいと考えられる地形。
- ・ランク B：現時点で低強度の破壊を受けている地形、今後、破壊が継続されれば、消滅が危惧される。



図 3-18 分水路の選定状況

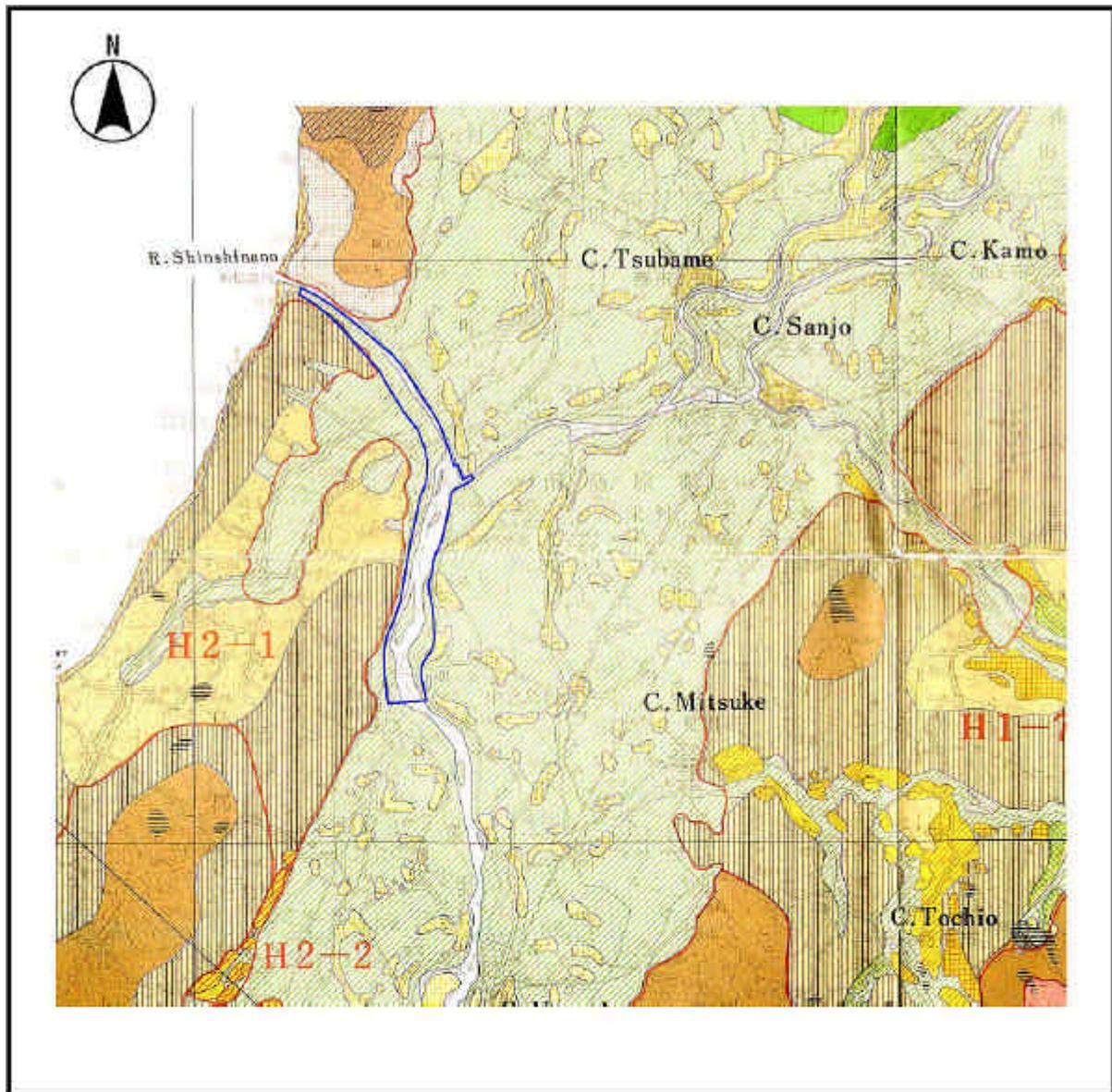
図 3-19 土壤図



出典：(財) 日本地図センター (1973)
土地分類図 (新潟県)

	残積性未熟土壌		粗粒灰色低地土壌
	砂丘未熟土壌		粗粒灰色低地土壌
	黒ボク土壌		細粒グライ土壌
	乾性褐色森林土壌 (赤楊系)		グライ土壌
	暗赤色土壌		粗粒グライ土壌
	褐色低地土壌		低位泥炭土壌
	動物・植物・生態系調査範囲		

図 3-20 地形分類図



出典：(財) 日本地図センター (1973)
土地分類図 (新測標)

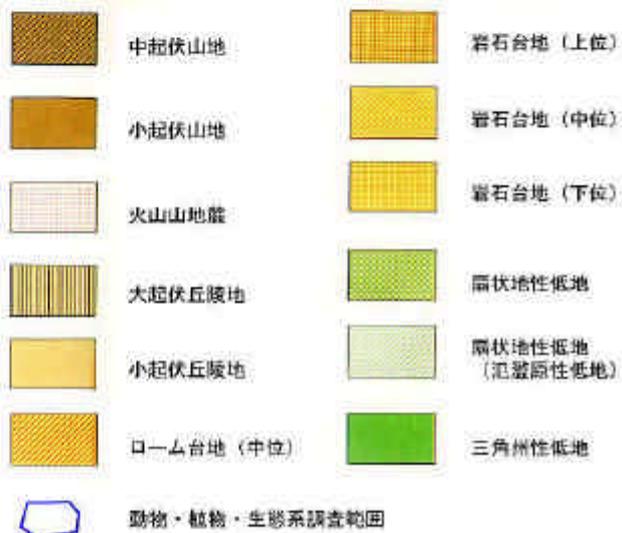
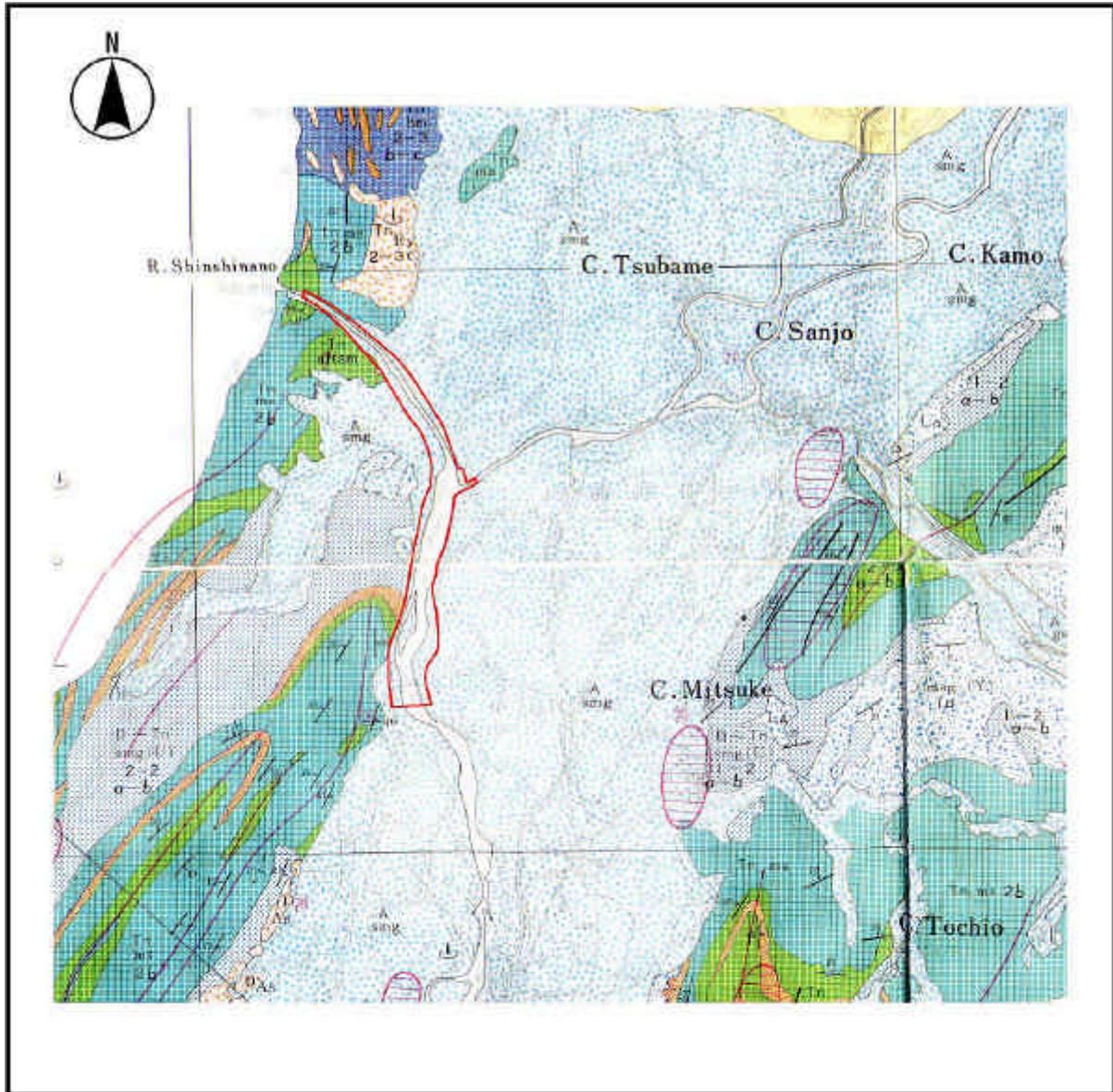


図 3-21 表層地質図



0 4 8km

出典：(財)日本地図センター(1973)
土地分類図(新潟県)

	泥・砂 (三角洲性堆積物)		硬質泥岩
	砂・泥・礫 (氾濫原性堆積物)		砂岩
	礫・砂・泥 (扇状地性堆積物)		砂岩泥岩互層
	礫・砂・シルト (段丘堆積物)		礫岩
	砂・泥・礫		ローム質火山灰
	泥・砂・礫互層		泥流(堆積物)
	泥岩		流紋岩
	動物・植物・生態系調査範囲		